

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520197

研究課題名（和文）20世紀における人形浄瑠璃の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study of Bunraku (Joruri Puppet Theatre) in the 20th century

研究代表者

細田 明宏 (HOSODA AKIHIRO)

帝京大学・文学部・准教授

研究者番号：20412801

研究成果の概要（和文）：

次の成果を挙げた。最終年度には報告書を刊行し、成果の一部を収録した。

(1) 近世期に成立した人形操りに関する文献について、現代語訳をした上で現行の文楽と比較するなど共同研究をおこなった。

(2) 新潟県における人形浄瑠璃の公演について、共同で調査をおこなった。

(3) 地方の人形座や文楽について聞き取り調査を実施し、それに基づいて口頭発表および論文の執筆をおこなった。

(4) 人形操法や人形遣いについての論文を発表した。

研究成果の概要（英文）：

We obtained the following achievements. I published a report containing a part of the achievements.

(1) We studied a literature about the puppet theater.

(2) We investigated a Joruri puppet theatre in Niigata Prefecture.

(3) We carried out some interviews about local puppet theaters or Bunraku, and wrote papers based on them.

(4) We announced some research articles about puppet or puppeteers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：人形、浄瑠璃、文楽、芝居、演出、演劇、操り、近代日本

1. 研究開始当初の背景

研究開始当時、近現代の人形浄瑠璃に関する

る研究は様々な分野で行われていた。芸術学的な関心から演者へのインタビューがたびたび行われたが、分担者である後藤静夫が編著者の一員として加わった『文楽談義』（1993）はその代表的なものである。明治以降の新作浄瑠璃に関する研究としては、『壺坂靈験記』（1887 初演）に関する細田明宏（代表者）による「観音靈験譚と錦絵・生人形・人形浄瑠璃」（2005）をはじめとする一連の論文が挙げられる。歴史的な言説分析としては、澤井万七美（分担者）の一連の論考があった。さらに地方で民俗芸能として伝わる人形浄瑠璃座に対する研究は、主として在野の研究者によって担われてきた。

しかしこれらの研究の多くは分野ごとに行われてきたのが実情であった。近現代の人形浄瑠璃について、各分野の研究者が連携して総合的に研究を行うことが求められていた。

## 2. 研究の目的

20 世紀以降（近現代）の人形浄瑠璃について、異なるアプローチをとる研究者が連携して調査・研究を総合的にこなす。具体的には、文学研究・芸術学・芸能史（歴史的研究）の研究者が連携し、資料を共有した上で議論を重ね、近現代における人形浄瑠璃の諸問題を体系的に明らかにすることを目的とする。また、現代における人形浄瑠璃の諸問題を解明するとともに、後継者育成問題や文化財保護などの社会的要求にも応じることも目的としている。

## 3. 研究の方法

各自の調査・研究を進めるとともに、数か月間に一回の割合で研究会を開催した。研究会では講読など共同での作業もおこなった。さらに、新潟県における人形浄瑠璃公演の調査および、文楽座技芸員に対する聞き取り調査も共同でおこなった。

## 4. 研究成果

本研究は、5 人のメンバー（代表者、分担者 3 人、協力者 1 人）により進められた。最終年度には報告書を刊行し、下に掲げた成果の一部を収録した。

メンバーが共同でおこなった調査・研究は次のとおりである。

（1）近世期に成立した『操曲入門口伝巻』について講読をおこなった。また文楽座技芸員に対して実演を含む聞き取り調査を実施することにより、現行の文楽との比較をおこなった。

（2）新潟県における人形浄瑠璃の公演につ

いて、共同で調査をおこなった。

個々のメンバーの活動は次のとおりである。

（3）次について聞き取り調査を実施し、それに基づいて口頭発表および論文の執筆をおこなった。

- ①長野県下伊那地方の人形浄瑠璃
- ②文楽における芸の伝承
- ③文楽の制作
- ④新潟県佐渡島の人形浄瑠璃

（4）次について論文を発表した。

- ⑤三人遣い操法の成立および特質
- ⑥江戸—東京系の人形遣い
- ⑦近世期の淡路人形座

上記のうち、活動の中心となったのは（1）である。（1）で取り上げた『操曲入門口伝巻』はこれまで研究の場でほとんど取り上げられたことがなかったが、本研究によりその価値を正しく認識することができた。その成果を報告書に掲載することによって、学界に問題提起をおこなった。

個々のメンバーにより、（3）（4）の成果を挙げることができた。それぞれ今後の展開が期待されるが、中でも（3）は本研究で得た知見をもとにしてさらに研究が進められることが見込まれる。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

1

細田明宏、文楽式人形操法における「情」の表現とカシラの演技—八王子車人形における操法の使い分けを手がかりにして、帝京大学文学部紀要・日本文化学 43、査読無、2012

2

久堀裕朗、早稲田大学演劇博物館蔵『浄るり今物語』解題と翻刻、文学史研究 5 2、査読無、2012、64-78

3

久堀裕朗、新出資料に見る近世淡路座の芝居興行—『淡島歴覧』の市村六之丞座興行記録、公開講演・演奏会「淡路人形浄瑠璃と大阪」実施報告、査読無、2012、9-16

4

後藤静夫、文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る—その 2 竹本源大夫、日本伝統音楽研究 12、2012、査読無

5

細田明宏、人形浄瑠璃における「情」の重視と三人遣い操法の成立、美学239、査読有、2011、37-48

6

久堀裕朗、浄瑠璃五段構成の衰微と淡路座、文学（岩波書店）第12巻第2号、2011、112-125、査読無

7

後藤静夫、文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る—その1 竹本伊達大夫、日本伝統音楽研究11、67-91、2011、査読無

8

細田明宏、歌舞伎『壺坂靈験記』における早替り—悪者雁九郎のゆくえ、演劇学論集・日本演劇学会紀要48、31-58、2009、査読有

9

細田明宏、勝彦蔵の歌舞伎『西国三拾三所観音靈験記』—趣向と題材、帝京大学文学部紀要 日本文化学、第40号、179~215、2009、査読無

〔学会発表〕（計15件）

1

久堀裕朗、『淡島歴覧』の淡路座関連記事、演劇研究会、2011・12・26、同志社大学

2

細田明宏、「民俗芸能」化する地方人形座—新作浄瑠璃の題材をめぐる、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」、2011・09・23、京都市立芸術大学、

3

後藤静夫、人形浄瑠璃・文楽の立体的大道具＝屋台の成立について、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」、2011・09・03、京都市立芸術大学

4

細田明宏、文楽の歴史 — なぜ1体の人形を3人であやつるのか、第14回晋州仮面劇フェスティバル学術講演会、2011・05・28、韓国・晋州、

5

澤井万七美、人形浄瑠璃興行における豊後系浄瑠璃・長唄・囃子、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「歌舞伎の地方（じかた）」、2011・3・10、京都

市立芸術大学、

6

後藤静夫、地域の文化資源を活かす、第3回市町村文化行政ネットワーク会議、2011・01・28、刈谷市総合文化センター

7

後藤静夫、人形浄瑠璃 大道具成立についての試論、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」、2010・09・25、京都市職員会館かもがわ

8

細田明宏、人形浄瑠璃演者の芸名について、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」、2010・08・29、京都市立芸術大学、

9

後藤静夫、人形芝居とその広がり、札幌大学文化学科北方フォーラム、2010・07・16、札幌大学

10

細田明宏、文楽式人形操法の成立について、美学会、2009・10・10、東京大学

11

細田明宏、文楽式三人遣い操法の成立について—浄瑠璃との結びつきに注目して、日本演劇学会、2009・6・27、大阪市立大学

12

細田明宏、近代における浄瑠璃の読み方と解釈について、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」、2009・05・17、京都市立芸術大学

13

細田明宏、三人遣い操法と浄瑠璃、ワークショップ「人形浄瑠璃を科学する」、2008.12.13、神戸大学

14

細田明宏、歌舞伎『壺坂靈験記』における早替り—悪者雁九郎のゆくえ、近現代演劇研究会、2008・7・26、大阪大学

15

後藤静夫、近松と文楽、神戸女子大オープンカレッジ近松再発見」、2008・05・27、神戸女子大学

〔図書〕（計5件）

1

後藤静夫（編著）、細田明宏（共著）、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、近代日本における音楽・芸能の再検討Ⅱ、2012、190

2

横山俊夫（編著）後藤静夫（共著）、京都大学学術出版会、ことばの力—あらたな文明を求めて、2012、165～184

3

神戸女子大学古典芸能研究センター（編）後藤静夫（共著）、和泉書院、近松再発見—華やぎと哀しみ、2010、184～200

4

後藤静夫（編著）、細田明宏（共著）、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、近代日本における音楽・芸能の再検討、2010、201

5

服部幸雄（監修）後藤静夫（共著）、淡交社、日本の伝統芸能講座 舞踊・演劇、2009、290-322

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www9.ocn.ne.jp/~hosoda/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細田 明宏 (HOSODA AKIHIRO)

帝京大学・文学部・准教授

研究者番号：20412801

(2) 研究分担者

後藤 静夫 (GOTO SHIZUO)

京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・教授

研究者番号：50381926

澤井 万七美 (SAWAI MANAMI)

沖縄工業高等専門学校・総合科学科・准教授

研究者番号：60330726

久堀 裕朗 (KUBORI HIROAKI)

大阪市立大学大学院・文学研究科・准教授

研究者番号：50335402